

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名
※機構記入欄	実施機関：岡山大学大学院教育学研究科 連携機関：特定非営利活動法人だっぴ・岡山市立後楽館中学高等学校
No. : -	セミナー名：【NITS カフェ in 岡山】 教育現場に地域の力を！ 一教員と院生，地域福祉のつながり創出—
テーマ： ①生徒の生きる力を育むキャリア教育とは？②どんな教育者になりたいかの二点をテーマとし、次の三点を達成目標とした。1)教員の生徒理解と支援に関して外部知見とのつながりを持つこと。2)教職大学院生のキャリア感を深めること。3)教員研修を教職大学院と NPO 法人、社会福祉法人の連携で行うこと。このような達成目標の設定に至ったのは、新学習指導要領において開かれた教育課程ということが求められていることも踏まえて、学校と地域との連携が必要であると考えたからである。その中に大学が入ることで、地域と学校の連携のもとで、教員の養成と研修の一体化を効果的に進められると考えた。	
内容： 開催場所：岡山市立岡山後楽館中学校・高等学校 開催日時：平成 30 年 8 月 28 日 (火) 9:30—12:15 参加者 (担当者含む)：岡山市立岡山後楽館中学校・高等学校教員 28 名 岡山県教育委員会・岡山県総合教育センター指導主事等 3 名 地域 (社会福祉協議会, NPO など) 16 名 岡山大学教育学研究科教職大学院 教員 3 名 学生 24 名 合計 74 名 実施プログラム： 9:30 全体説明 10:00—11:00 グループディスカッション① グループは現職教員，大学院生，地域人材を含む 5 名程度 それぞれのテーマに対して、自分の考えをキーワードで示す それを元にグループで話し合い 11:00—12:00 グループディスカッション② (メンバーを替えて) 12:00—12:15 振り返り グループディスカッションでは、それぞれの教育に対する価値観や、教育観を問い直すようなテーマが示され、それについてグループごとにファシリテーターを中心に話し合いを行った。話し合いは、何か統一した意見を作ることが目的ではなく、各自が自分の考えを述べたり、他者の意見に耳を傾けたりすることを通して、共感し合ったり、自分の考えを見つめ直したりすることを目指して行われた。現職の教員と教員を目指す院生、そして地域の福祉にかかわっている方々が、世代や職種を越えて交流することができた。	
成果： 参加者全員が、今回の研修について肯定的な評価をしており、教員研修としての効果も実感していた。アンケートには、「心を開く研修にもなったので、気持ちがスッキリした」、「異年齢、他職種の方と関わって楽しかった」、「考え方や見方の幅が広がる」等の感想が述べられていた。また、「今回の自分のように参加する前は何も知らず、前向きとは言えない状態で参加する人が多いのではと思うのですが、たぶん参加後は面白かったと思えるのではないかと思う」というように、参加することで自分の考え方が変わったことを実感できている参加者もいた。さらに、これから目指したい教育として、「生きにくい時代をひとりでも生き抜いていく、自立した人を育てる教育を目指したいです」、「生徒のもっている力を伸ばす教育、気づきの力を引き出す教育」、「生徒が自分で自分自身で伸びていく力を育てられる教育」といった言葉が挙げられていた。このことは、今回の研修を通して教員自身が目標を持ち、前向きに学校にかかわっていくことができるようになったことを示唆していると言えるだろう。	
アイデアや工夫したこと： ・地域の方々にも入っていただき、学校外の方との交わりの中で自己の教育観などを見つめ直すことができるようにしたこと。 ・院生自身も、現職教員の前で萎縮することなく積極的に自分の意見を述べられるような雰囲気を作ること。 ・自分の考えに固執することなく他者の考えに共感し、それを受け入れられるようにするための話し合いのルールを共有すること。	

<写真・図など>

1. 全体説明とグループ内ファシリテーターの決定



2. グループ内での自己紹介—これまでの人生のターニングポイントを中心に—



3. グループディスカッション① その1「生徒の生きる力を育むには？」



4. アディショナルグループディスカッション：各グループで話し合いが深まるテーマを設定

